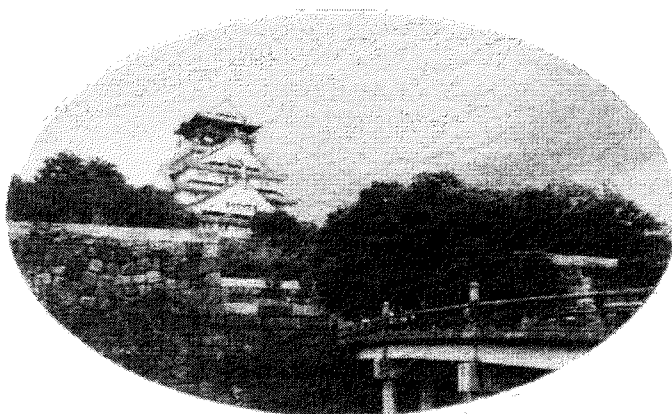


N T T 労組退職者の会
大阪支部協議会

10周年記念誌



1998年11月14日～2007年9月30日

十年一昔という
しかし過ぎれば短く感じる十年
歴史を語り継ぐ節目としての
十年という周期は短いのか
長いのか
されど十年という足跡は
確実に残っている
「その間に、世の中がどう動き
何がどう変わったのか
検証し総括することが大切」とは
初代事務局長の
田宮氏からのメッセージ
資料不足もあり
欠ける面も多々あるが
大阪支部協の足跡として
過ぎし思い出に
少しは触れてもらえれば
幸いと思う



結成10周年に あたって

NTT労組退職者の会
大阪支部協議会 会長 鷺谷 憲



NTT労組大阪支部協議会は、本年10周年を迎えることができました。これもひとえに活動を支えていただいた会員の皆様をはじめ諸先輩の役員の方々やNTT労組のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

NTT労組退職者の会は1973年(昭和48年)に結成されて本年で35年を迎えることとなります。当初の組織形態は、当時の全電通に対応したものとして中央協議会・地方協議会・各支部に対応して支部協議会、が設置されていきました。大阪では全電通の5支部再編が行われ、退職者の会も5支部協議会で活動してまいりました。しかし、1998年(平成10年)12月全電通労働組合からNTT労働組合となり、地方本部がなくなり一県一支部と組織改編され、退職者の会も労働組合に合わせて組織再編を行うことになりました。

大阪では関西中央支部・大阪北部支部・大阪東部支部・大阪南部支部・関西ネットワーク支部の5支部協を一つに統合し、1998年(平成10年)11月、労働組合より一足早く大阪支部協議会を結成しました。旧の5支部協はそれぞれ職域支部でしたから、地域に密着した活動を指向していくために2年間議論を重ね、大阪を4つの地域に分割し、ブロックと位置づけ、現在の「なにわ」・「北摂」・「河内」・「泉州」の各ブロックを構成して活動しています。

大阪支部協の活動は旧5支部協の長所を取り入れながら、親睦を深める行事や生活を守るための政治課題に取り組み、着実に前進してまいりました。今では事務所の常駐体制も確立され、会員の皆さんからの問い合わせに対応しています。行事の方は、「いきいき講座」に代表される支部協企画とブロック企画をかみ合わせながら、多彩な行事を開催してきました。全電通近畿社会福祉事業団「愛の家」へのカンパ活動とボランティア活動、平和運動の一環としての献鶴活動も定着しつつあり、平和の大切さと重要性を訴えています。また、生活を守るための政治活動は現退一致して取り組んでまいりました。とりわけ選挙活動では一定の役割を果たしてきたと思っています。退職者の会を取り巻く情勢は厳しくなると予測されるので、一層の活動の充実と強化が必要です。10周年を契機に、退職者の会の更なる発展に向けて取り組みたいと決意しています。

終わりにあたり、10周年記念誌といえは10年を終えてから発行されることが多いのですが、大阪支部協としては、満10年を迎えた2007年10月からの1年間を10周年記念行事を行う1年間と位置づけ、第10回定期総会での記念誌の配布を記念行事の第一歩とし、記録的には10年の歴史とはなりません。本誌を発行いたしました。

うれしく思っている 二つの活動

NTT労組大阪総支部
執行委員長 山田 健一



「NTT労組退職者の会・大阪支部協議会結成10周年」を心からお祝い申し上げますとともに、日頃は現役の活動に対しまして、大所高所に立っての助言と絶大なる御協力をいただいていることに、改めて御礼を申し上げます。

「10年ひと昔」と申しますが、常に先駆的な活動を実践され、全国的な活動の牽引車の役割を担われてきた、大阪支部協議会の10年の歩みは、現役にとりましても大変誇りに思っています。

とりわけ、大阪支部協議会の多種多様な活動の中でも、個人的にうれしく思っている活動が2点あります。

その1つは、大阪支部協議会の会報である「摂河泉OB」のネーミングです。

1998年の全電通近畿地方本部の解散に伴い、現役は支部再編を行い、大阪支部を発足させました。同時に退職者の会の皆さんも11月14日に、大阪府下の退職者の会を再編され、共に新たな活動をスタートさせたのですが、当時、大阪支部の事務局長の任を仰せつかった私としましては、「大阪は1つ！の意味を現役の機関紙名としたい」との思いから、大阪北部支部の摂津、大阪東部支部の河内、大阪南部支部の泉州からヒントを得て「摂河泉」としましたが、現・退一致の活動の推進に向け、大阪支部協議会の皆さんも退職者の会の会報を「摂河泉OB」と命名してくださいました。

その後、現役は再び組織再編を行い、現在の機関紙名は「浪紀路」に変更となりましたが、是非とも今後も「摂河泉OB」の名称は継承していただきたく存じます。

2つ目は、「健康ウォークラリー」です。この取り組みも、退職者の会・近畿地方協議会の担当役員をさせていただいていた頃、「近畿各地にお住まいの会員の皆さんが自宅に居られても、支部協・地方協とウォークラリーを通じて、ひとつになれる取り組みを展開しよう」との思いで発案したのですが、今日まで大阪支部協議会の活動のひとつに加えていただいていることです。

まだまだ思い出は尽きませんが、高齢社会に突入している今日的な状況の中で、年金・医療・介護問題を始めとする社会保障制度が日増しに悪化してきており、退職者の会の皆さんと連携した取り組みが極めて重要であると痛感しています。NTT労組の組合員が18万人に対し、退職者の会の会員数は10万人を超える組織となり、退職者の会の皆さんのお力を得なければ前に進まない、NTT労組としての取り組みも多くあります。引き続き現・退一致の活動の推進をお願いするところでございます。

最後になりましたが、大阪支部協議会の益々の発展を祈念し御挨拶とさせていただきます。

問題意識を持つのは 「距離感」です

NTT労組大阪総支部
前執行委員長 赤本 忠司



退職者の会が、大阪支部協として10年。鷺谷会長、小林事務局長と全役員の皆様方の日夜を分かたぬ、まとまろうとする努力が、退職者の会の発展の原動力だったとっております。ご苦勞様です。

参議院議員「吉川さおり」君と「梅村さとし」君の誕生に向けた、皆様方の取り組みに敬意を表します。本当にお疲れ様でした。庶民の年金、医療、不正等への関心の深さと怒りが、如実に投票行動へと駆り立てたものとして喜んでいきます。極めて若い議員が誕生しました。今後は先輩の皆さんの働きかけ如何が、憲法改正、安保・防衛、老後の生活等を考える上で重要な判断基準になると思います。電話で私たちの相手をする時間があるとは思えませんが、手空きの時間帯には、メールなら届きさえすれば一読してもらえましょう。どんどん想いを送信しましょう。

さて、退職者の会と今次参院選を考えていて、問題意識を持つのは「距離感」です。退職者の会の活動が、また、参議院議員としての活動を推進していくのも、会員と会との距離あるいは議員と市民との距離が、大切だと考えています。離れては意思疎通に欠け、接近しすぎでは存在感が乏しくなります。

地理的距離はネット上で簡単に検索できます。大阪－東京間は400km。大阪－札幌1,060km。ロンドンへは9,510kmでパリなら9,640kmです。しかし、パリ－ロンドン間は僅か340kmで東京－大阪間よりはるかに近い。パリとベルリンなら880kmで大阪－札幌よりも近い距離です。英仏独三国の近代の戦争関係は知るところですが、あまりにも近距離であることを知るにつけ、ヘンな納得をしてしまいます。ただ問題は、ロンドン、パリ、ベルリンそれぞれが首都であることです。福岡－東京が890kmですから、三国の首都が本州と九州の中にスッポリと納まることになります。

しかし、日本の首都は東京一つ。通信、鉄道、道路等すべてを放射線状に東京中心に組み立てられてきましたし労働組合も同様です。日本の国土は大きいことを、再認識する必要があります。大阪の存在感をタコヤキだけで示すのではなく、政治、経済、文化を示すことで大阪の存在感を高めるときが今だと言えましょう。まずは11月の大阪市長選、年明け2月の大阪府知事選、そして解散総選挙でしょう。

退職者の会の大いなる発展を祈念し……と最後はまとめるべきなのでしょう。が、発展は置いて、今ここで立ち止まって、国の広さと、大阪はいつまで東京の次なのかを考える時だと思っております。